

2026 不知火忌

石牟礼道子さんの命日(2月10日)に合わせ、2026年2月7日(土)に「不知火忌」を開催いたします。
2025年5月に石牟礼さんの資料の適切な整理、保存、活用に関して連携協定を結んだ京都大学人文科学研究所の教授で、石牟礼文学をご自身の研究にも生かしておられる歴史学者の藤原辰史さんをお招きし、お話をさせていただきます。石牟礼さんの資料の展示もいたします。

【と き】2026年2月7日(土曜)14時開始

【ところ】真宗寺(熊本市東区健軍4丁目17-45)

※真宗寺には駐車場がありません。公共交通機関での来場をお願いします。

【参加費】1,000円

※参加費は当日お支払い。お釣りが生じないようお願いいたします。

14時——読経、お焼香(石牟礼さんの墓前で)

14時半——坂口恭平さん親子の歌

15時——藤原辰史さんの講演

(京都大学 人文科学研究所教授)

「生類のみやこはいずくなりや

——石牟礼道子の思想的継承に向けて」

16時半——散会



藤原辰史
ふじはら・たつし

1976年生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程中退。博士(人間・環境学)。専攻は、食の思想史、農業史。著作に『ナチスのキッチン——「食べること」の環境史』(河合隼雄学芸賞)、『給食の歴史』(辻静雄食文化賞)、『分解の哲学——腐敗と発酵をめぐる思考』(サントリー学芸賞)、『戦争と農業』、『農の原理の史的研究』、『生類の思想——体液をめぐる』、『食権力の現代史——ナチス「飢餓計画」とその水脈』など。

参加には事前の申し込みが必要です

参加定員：先着 80 名

◎問合せ／申込み

✉ sui3anan@gmail.com (阿南)

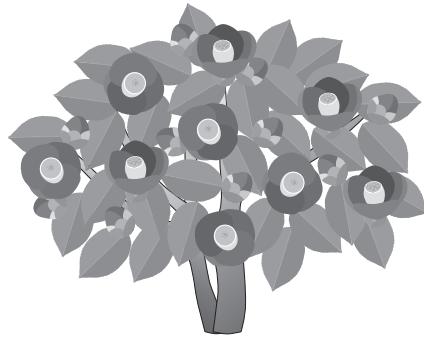
◎報道機関問い合わせ

✉ nami@kumanichi.co.jp (浪床)

※取材希望の報道機関は取材スペースを確保致しますのでご連絡ください。(取材申込締切：2/1 ㊥)



主催：石牟礼道子資料保存会、真宗寺
共催：京都大学人文科学研究所



「花を奉るの辞」 石牟礼道子

春風萌すといえども われら人類の劫塵^{かさ}いまや累なりて 三界いわん方なく昏し
まなこを沈めてわずかに日々を忍ぶに なにに誘なわるるにや
虚空はるかに一連の花 まさに咲かんとするを聴く^{ひら}
ひとひらの花卉 彼方に身じろぐを まぼろしの如くに視れば
常世なる仄明りを 花その懷に抱けり
常世の仄明りとは この界にあけしことなき闇の謂^{いい}にして
われら世々の悲願をあらわせり かの一輪を拝受^{こんにち}して今日の仏に奉らんとす
花や何 ひとそれぞれの涙のしずくに洗われて咲き出づるなり
花やまた何 亡き人を偲ぶよすがを探さんとするに 声に出せぬ胸底の想いあり
そを取りて花となし み灯りにせんとや願う
灯らんとして消ゆる言の葉といえども いずれ冥途の風の中にて
おのおのひとりゆくときの花あかりなるを
この世を有縁という あるいは無縁ともいう その境界にありて
ただ夢のごとくなるも花
かえりみれば 目前の御彌堂におわす仏の御形 かりそめのみ姿なれどもおろそかならず
なんとなれば 亡き人々の思い来たりては離れゆく 虚空の思惟像なればなり
しかるがゆえにわれら この空しきを礼拝す 然して空しとは云わず
おん前にありてたゞ遠く念仏したまう人びとをこそ
まことの仏と念^{おも}うゆえなればなり
宗祖ご上人のみ心の意を体せば 現世はいよいよ地獄とや云わん 虚無とや云わん
ただ滅亡の世迫るを共に住むのみか
こゝに於いて われらなお 地上にひらく一輪の花の力を念じて合掌す